

午前10時56分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、16番草場重正議員の質問を許可します。16番草場重正議員。

（16番草場重正君登壇）

○16番（草場重正君） 16番の草場重正でございます。多事多難でありましたことしもあと24日で新年を迎えることになります。ことしは、なんかんずく国難の年であり、政局に翻弄された1年でもありました。日本の政治は、ことしに入ってから、「維新」だの「未来」だの、第三極と言われるにわか政党が雨後のタケノコのように出現をし、私たち国民を困惑させております。しかし、16日の総選挙の結果次第でこの難局は当分続きそうであります。本日は、第三極の代表格である維新の会が注目を集めている背景を考えてみたいと思います。

言うまでもなく、明治維新は近代国家日本の出発点であります。そこには、人々の心をかきたてる数々のドラマがありました。ゆえに政治家は、苦境に直面するとき、維新を振り返るのであります。

リーダー不足の日本、私たち国民はちょうど幕末のように、国家の建て直しが必要だという認識が人々に共有されつつあります。それが維新という言葉に敏感に反応しているのではないのでしょうか。難局を打破するには何でも変えればよいと我々は思いがちであります。民主党も自民党もだめだから第三極に期待をする。そして、そうした心理状態が間違ったブームを生んだりする。それが3年前のマニフェストブームでありました。その結果、今日の混乱をもたらしました。しかし、それを選択したのは国民であります。今日、国会議員の劣化が話題になりますが、政治家は国民の鏡そのものであり、今、世界から日本人の政治資質が問われているのであります。

さて、明治維新は決して日本を変えたのではなく、むしろ日本本来の国家の礎を築くことによって維新は成功したのであります。今の日本の課題は、ある意味で幕末の人々が背負っていた課題よりはるかに困難な問題を抱えております。

翻って、朝倉市も、本年は豪雨に見舞われ、山積する問題を抱えながらも師走が終わろうとしておりますが、来年は執行部と議会、力を合わせながら活力ある朝倉市に努力をしていかなければなりません。以下、質問席より質問を続行させていただきます。

（16番草場重正君降壇）

○議長（手嶋源五君） 16番草場重正議員。

○16番（草場重正君） 通告に従って、まず、観光基本計画からお尋ねをいたします。

朝倉市の政策は、10年間の長期計画である第1次朝倉市総合開発計画のもとに推進をされていると思います。また、これを支える各種の計画も相当な数になると認識をしております。例えば、公共交通連携計画、あるいは環境基本計画などさまざまな分野において個

別の計画が推進中であります。その中で観光行政は何をベースに業務の遂行をしているのか、まずお尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） 何をベースにということですが、観光につきましても1つの産業でございます。観光産業につきましては、各種経済波及も大きいというふうに思っているところでございます。そういう1つの産業部門の中の観光振興というような位置づけがございますので、産業振興の1つの大きな役割を担うものが観光だというふうに思っておりますので、そういう考え方をもとに観光を進める観光基本計画があるというふうに認識しております。

○議長（手嶋源五君） 16番草場重正議員。

○16番（草場重正君） もう少し大きく声を出していただきたい。ちょっと聞こえづらい面がありますので。

第1次朝倉市総合計画のもとに推進をされている朝倉市の観光基本計画は、地方を取り巻く状況というのが非常に年々厳しさを増す中で、少子高齢化に伴って交流人口の拡大による地域振興をこの計画によって促そうとするものであります。最近の観光というのは団体志向から個人、さらには家族志向へと変化をいたしております。また、観光地の多様性や個性がより一層求められているとも聞いております。

このような背景から、伝統文化の見直しあるいは自然保護などへの転換が図られて、地域の資源を生かした観光へと移行をいたしていると思っておりますけれども、朝倉市は歴史・自然あるいはまた文化、そして温泉など豊かな資源を抱えております。この観光基本計画をもとに観光行政を推進してあると思っておりますが、この計画書の実施状況を見ても、甚だ疑問がある点が数多くございます。ですから、ここで改めて観光計画についてお尋ねをいたします。

平成20年の3月に策定されましたこの計画書は、朝倉市の観光行政の指針となるべく重要な計画書が計画倒れになっているのではないかと考えている点が数多くございますので、本日はこの観光計画をお尋ねしているわけであります。

この観光基本計画の進捗状況についてお尋ねをしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） 進捗状況ということですが、観光基本計画が設定いたしました将来像というのは、訪れる人、住んでいる人が魅力を感じ、着実に前進する前向きなまち、訪れる人を温かく迎え入れる触れ合いの観光地づくりであります。

観光によるまちづくりににつきましては、個別個別の取り組みだけで結果が出るというものではございませんで、総合的かつ複合的な取り組みの積み重ねであるというふうに思っております。現在、将来像の実現に向けたさまざまな観光施策を行っているところであり、だんだんと前進、進捗をしているというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 16番草場重正議員。

○16番（草場重正君） だんだんと進捗しているというふうにおっしゃいましたけれども、この計画書の34ページに、だんだん朝倉物語とありますが、この言葉にはふるさとの温かみがあって素晴らしい響きがあって、非常に内容のいいできであると思っております。またその次の朝倉物語も非常にいいキャッチフレーズになっておりますけれども、その内容というのが非常に生かされていないのではないかと思います。

まず、2ページの第1章では、観光振興の重要性を認識し、その姿勢や方向性を明確に打ち出すことで市民、事業者、そして行政がそれぞれの枠組みや分野を超えた観光振興を促す、とありますけれども、具体的にどのような進め方をしているのかお伺いします。

私は、なぜこれを持ち出すかといいますと、私には市民と事業者、そして行政の3者がこの計画を具体的に進めていくその姿勢というのが見えないからお尋ねするのであります。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） 具体的な取り組みということでございますが、観光にはさまざまな面がございまして、例えば第3部の各論という分野別の取り組みというところには、観光資源を活用するとか、おもてなしの仕組みとか、情報発信とか、それからその環境づくり推進体制というように、各さまざまな部門から観光振興を進めるというようなふうに計画でも述べているところでございます。

こういう大きな分野がございましてけれども、実際の観光振興につきましては社会経済情勢や時代の波に敏感に対応していくということが大切だと思っておりますので、具体的には、ことしにつきましては大学との連携事業とか都市圏でのイベントの市のアピールなどを行っているところでございます。そういう大きな分野ごともありますし、時代の波に乗っていくというような考え方に基づいて進めているところでございます。

○議長（手嶋源五君） 16番草場重正議員。

○16番（草場重正君） 私がお尋ねしているのは、さっき言ったように、市民、行政、事業者が一体となって何をしていくのか、具体的に見えないのでお尋ねしているんであって、そういうことを聞いているのではないんですよ。

今、課長が言ったように、その時代、その時々に応じた観光施策を敏感に取り込みながら推進していくと言いましたけれども、例えばそういうことをしてないじゃないですか。なぜならば、私は9月の一般質問で言いましたように、ふる里人物誌の中で取り上げていなかった臼井六郎、日本の最後のあだ討ち、これが放映されたときには、秋月にその時期、倍以上の来客数があったとおっしゃっていました。あったならば、それを持続していく、生かしていく、そういうことが全然なされてないじゃないですか。やっぱりこれからはそういうことをあなたが敏感にとりながら対応していく。いうならば、そういうことも含めて観光行政につなげるべきではないかと思うからこのことを尋ねているわけですが、実態はどうなんでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） 臼井六郎の件につきましても、1つの大きな出来事といえますか、放映という出来事、それが観光に結びつけていくというような考え方が大事だということでございます。

そういう考え方につきましては、例えばことしの復興イベントということで、残念な出来事ですけれども、それを復興を観光の大きな力にも結びつけていきたいということで、福岡市において観光イベントをして、大きな反響を得たという場面もございました。そういったところから、そのときそのときに応じた観光客の来訪を大きく促すといった取り組みにつきましても、大切にしていきたいというふうに思っておりますので、そういう継続といえますか、大きな出来事につきましては大切に見詰めていくというような考え方はしております。

○議長（手嶋源五君） 16番草場重正議員。

○16番（草場重正君） やはり市民、事業者、行政、三位一体となって裾野を広げていくためその観光行政というのは非常に難しい面があると思います。観光客の、あるいは交流人口の増大というのはどこの自治体も抱える頭の痛い問題であるけれども、これからはそれに力を入れていかなければならない時代に入っております。

次に、6ページの第3章にあります計画の期間についてであります。平成24年度は10年計画の前半が終わる予定になっております。例えば、10年後の目標に、主要観光施設の観光客数は294万人から350万人とありますが、現在はどうなのか。この目標は達成できる目標だと考えてあるのか。また、計画的な目標値の推進はどのように図られているのかをお尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） 今の状況でございますが、平成22年には314万人でございました。平成18年の294万人という数字からは7%増ということで微増ということでございました。平成23年につきましては292万人と下がりまして、平成18年とほぼ同じ来訪者数ということでございました。平成23年につきましては、震災による旅行の自粛と高速道路日祭日1,000円というものがございましたが、それが廃止されたということが影響したものだというふうに推測をしているところでございます。

10年後の350万人達成できるかということでございますけれども、先ほどいいましたように、さまざまな分野をそれぞれ全て力を入れていくというような考え方で、達成に向けて全力を尽くしたいというふうな考え方でございます。

それから、目標に向けての今後の考え方ですけれども、一つ一つのイベントとか出来事とかで数値を上げるというようなことじゃございませんで、全体を底上げしていくと、さまざまな取り組みの面から底上げしていくといった考え方で350万人に向けていきたいというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 16番草場重正議員。

○16番（草場重正君） ぜひ目標を上回るような努力をしていただきたいと思います。

第3部の分野別取り組みでは、さまざまな具体的提案が数多く掲載をされておりますが、この中で現在実施されているものを伺います。

普通、これだけの内容のある業務を商工観光課だけで推進するには非常に荷が重いのではないかと私は非常に同情しておるところであります。しかしながら、少し無理があるのではないかとともにまた思っております。

また、策定委員会の提案によるアイデアも豊富に提案をされております。この中で実施したものがあるのかどうかをお伺いしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） 現在、今取り組んでおりますものは、先ほどいいましたように、大学との連携事業、都市圏でのイベントによる市のアピール、それから整備事業といたしましては原鶴水辺広場などの整備、それから市、郡筑後地域、それから日田地方との広域な連携事業などを実施しているところでございます。

商工観光課だけでできるのかという考え方につきましては、計画の最後のほうにもありますように、各主体の役割がございまして、民間の観光事業者とか市民や一般企業、それに行政をそれぞれの役割に応じて総合的に進めていくというような考え方が必要でございますので、いかにそういう方々と連携をとるかということが大切だというふうに思っているところでございます。

それから、豊富な市民からの提案ということでございますけれども、さまざまな市民提案がございまして、その中でありますものは、1つには、例えば、これは観光資源の活用ということでございますけれども、観光資源の活用の中には、百人一首かるた会をPRするとか、それから富有柿の日本一の生産高と味のよさをPRするとかございます。そういう市民ワークショップ、市民からの提案がございまして、そういった市が実施するだけではなく、市と市民と一緒にやるものとか、市が進めるものとかさまざまございまして、市民からの提案につきましては多くが実施に向けて——多くといたしますか、かなり提案が実施に向けているというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 16番草場重正議員。

○16番（草場重正君） 私は、この中で策定委員会の提案のアイデアの実施したものはありますかということをお尋ねしたんですけれども、どうもないみたいでありますね。

また、70ページには重点プロジェクトの提案も書かれております。その中で、平成20年度以降、市民の参加を含むプロジェクトチームを組織し、施策の実現に向けて具体的な実施内容に関する企画立案を行っていくと書いてありますけれども、私の知る限りでは、この4つのプロジェクトは全く手がついていないと思っておりますが、どのような計画あるいは立案をするのかお伺いしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） 重点プロジェクトにつきましては、資源活用、魅力向上、それからおもてなし環境とか、情報発信とか、連携というような4つのプロジェクトをこの計画では提案しているわけですが、確かに市民と一緒に体制を組んでというところまでには至っていない現状でございます。

しかしながら、こういうプロジェクトにあります考え方、例えば人材の育成とか観光道路とか、それからほかの自治体との広域連携など、そこにあります、プロジェクトの中にありますそれぞれの個別の取り組みにつきましては、重要な課題だというふうに認識しておりますので、商工観光課だけではございませんで、民間ともそういうつながりを重視しながら進めておるということでございます。

○議長（手嶋源五君） 16番草場重正議員。

○16番（草場重正君） しているところであります、推進中でありますと言っても、具体的なものを聞きたくて、実はこの観光基本計画についてお尋ねをしているんですけれども、どうもかみ合わないみたいであります。

また、76ページに観光コーディネーターセンター設置の提案があります。これは専門性の高い外部の人材の登用を視野に入れながら体制を強化することだろうと思っておりますけれども、このことについても私非常に、大いに期待をいたしておりますが、その後、このセンター設置についてはどのように進捗しているのかお伺いをします。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） ここにございます観光コーディネート体制の設置ということにつきましては、平成20年10月から23年3月までの2年半にわたりまして、交流コーディネーターセンターを設置して、市内観光関係者同士の橋渡しとか連携強化に努めてきたところでございます。一定の役割が果たされたということで、センターを廃止をしておりますが、平成24年4月からは観光振興係を設置、商工観光課内に観光を進める観光振興係を設置し、観光振興体制を強化しているところでございます。

このコーディネート体制の趣旨といいますものは、観光振興は行政だけの動きではなく、民の力を十分に発揮することが重要ということでございますので、今後ともさまざまな主体との協働による観光振興に取り組んでまいりたいというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 16番草場重正議員。

○16番（草場重正君） 一定の効果があつたのでコーディネート制は閉鎖をしたということではありますが、どうも市民からしますと、効果があつたとは考えにくい点があると思います。そして、今お話を聞いておりますと、この計画書策定にも高い税金が投入をされながら、計画どおり実施がなされていない。こういった計画書というのは、外注はせずに、朝倉市を知り尽くしている職員みずから策定をすべきという意見があり、税金の無駄遣いという指摘もあります。今後こういったものを外注する予定なのかお伺いしたいと思

いますが、副市長。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埜本 潔君） まず1つには、リーマンショック以降といたしますか、社会状況の変化がかなり急激に起こっているといいますか、10年先のことを前提として計画を立てて、それを例えば数%の経済成長があるということを前提にして物事を進めていくという旧来型の手法が必ずしも適合しないという社会状況がありますので、そもそもこういった計画型でやっていくのかというところから議論があるかと思います。次の計画をどういうふうにつくるのかと言われましても、現時点で観光計画の次なるものを一定の時期が来たときに同じような形でつくるというふうに決めているわけではございませんので、そのことについてはまた改めて議員の皆様方にお示しした上で御議論したいというふうに考えています。

そもそも計画をつくるときに、行政が直接つくったほうがいいのか、それとも何らかの業者をかませたほうがいいのかということにつきましては、例えば先ほどの経済成長率を一定見込んだ場合に、それをシミュレーションしてみて、経済的な分析をしてみるというようなものであったり、あるいは人口動向について一定の分析をしてみたりと、そういった部分につきましてはなかなか職員が独自にやっていくというのが難しいような部分もございますので、一定業者を委託をしてやっていくというような部分がこれまではあったんではないかというふうに思います。

全部の部分に業者を入れるということではありませんので、例えば既に当初予算で議決いただいています後期の基本計画の部分につきましては、職員が自前でやるということで、皆さん方にお示しして議決をいただいたということでございます。

○議長（手嶋源五君） 16番草場重正議員。

○16番（草場重正君） やはりこれだけの経済状況の中で、優秀な職員が朝倉市の行政を担っているわけでありまして、さっきも言いましたように、やはり職員が一番朝倉市を知り抜いているわけでありまして、みずからがつくって携わって、一緒になって市民を先導していくと、そういった大きな役目を職員は担っていると思いますし、市民からも率直な疑問として、高い税金を投入しながらいろんな計画書ができているけれども、自分たちでつくっているのはあるのかといった素朴な疑問があるわけです。ですから、私、ちょっと副市長にお尋ねをしたわけでありまして。

そこでまた商工観光課長にお尋ねを、もうこれ最後ですから。この観光基本計画について、今後どのように進めていくのか、基本的なことは抜きに、具体的にお伺いします。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） これは、基本計画の第5部、計画の推進に向けてにあるんですけれども、施策の実施につきましては、観光事業者や商業の関係者、観光関連団体等の取り組みによるところが大きいということでございます。各事業者が当事者意識を持

って主体的に取り組むことが不可欠であるというふうに考えております。

このことを念頭に置きながら、広く情報を集めまして、時には専門家などの第三者の視点を取り入れながら、時代の波に敏感で柔軟な取り組みを進めていきたいというふうに思っております。

また、観光に参加したいという意思のある多様な市民の参画を得たり、連携を図りながら進めていくということでございます。こういう考え方に向けて計画の推進をしていきたいというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 16番草場重正議員。

○16番（草場重正君） 朝倉市の親善大使についてお伺いをいたします。

私もこの親善大使なるものがあることを知りませんでした。聞くところによりますと、関西朝倉会の内田会長、それから東京朝倉会の根本会長、お二人が親善大使として朝倉市を全国各地に売り出されていると聞いておりますけれども、この親善大使のことについては市民の中に意外と知られておりませんので、このことについてまず御紹介を願いたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） この親善大使につきましては、観光基本計画の中にもあるんですけれども、朝倉出身の著名人等の協力のもと、観光親善大使という言い方をしておりますが、それを任命するなどして、朝倉市の知名度向上キャンペーンの展開を図るとい、こういう考え方に基きまして、朝倉市の親善大使ということで、関西のほうには内田様、それから関東のほうには根本様というようなことで、親善大使を任命をしているところでございます。無報酬でしているところでございますが、この方々につきましては、朝倉市とゆかりのある方々等を結びつけると。関西とか東京におられるそういう方々を朝倉市と結びつけるというような役割を果たしておられるところでございます。

特に、関西の内田親善大使につきましては、関西朝倉会といいまして、朝倉市関係者、これは朝倉市出身の方々だけじゃございまして、朝倉市と関係ある企業の方々等を1つの会として朝倉市と結びつけていこうというような活動をされております。

実は、高校の近畿朝倉会とかというのがございますけれども、そういう卒業生の卒業生による会ではございまして、この朝倉市の知名度を上げるなり結びつきを深めるという目的のためにそういう会を発足させてあります。この会につきましては、朝倉市の例えば産業、それから観光団体につきましても連携を図っているというようなことでございます。そういう朝倉市をふるさとに思う方々が、何とか朝倉市を盛り上げたいというような活動をしてあるという状況でございます。

○議長（手嶋源五君） 16番草場重正議員。

○16番（草場重正君） 2名の方に御迷惑かけて朝倉市をPRしていただいているということですが、やはりこの親善観光大使につきましては、意外と、さっきも申しまし

たように知られていない部分がございますので、市政だより等で紹介するなりしてはいかがかなと思います。

今、ゆるキャラブームといいますか、ゆるキャラというのが各地の自治体などでつくられて、観光に一役買っております。そしてまた、大変なブームになっているみたいであります。

これは一過性とは思いますが、観光親善大使であれば専門性がなくても郷土出身の有名な人なら務まると思いますけれども、先般、富田議員が言っておりましたが、女優で杷木出身の吉瀬美智子さんは、時折杷木に帰られているという話でありました。私は、彼女が杷木の方とは存じませんでしたけれども、富田議員が観光大使について何か打診をしたという話をちらっと又聞きをいたしました。この親善大使の委託について何か関係課で打診をしたとかいう話をちらっと聞きましたけれども、その後何かありましたらお聞きしたいと思っております。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） その観光大使の選任については、その女優の話題がよく上がっているところでございます。御理解いただいているというふうに思いますが、経費などのさまざまな理由がございまして、難しいというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 16番草場重正議員。

○16番（草場重正君） 何か、一説には年間5,000万円からの委託経費がどうのこうのということを非公式に、本当かどうかわかりませんが聞いておりましたので、そういうべらぼうな金額となると、ちょっと現実的ではない話でありますので、それはそれで、あくまでも民間関係で連携してもらえばいいことであって、行政としてはいかがなのかなと私も思います。

最後に市長に、観光施策についての考えというのを伺いたいと思います。

朝倉市というのは観光資源を数多く抱えておりますが、きょうは秋月について伺いたします。

秋月は、その季節に入りますと一挙に観光客が押し寄せ、交通渋滞に陥って、地元の方々は非常に迷惑をこうむっているという現実もまたあります。本来、秋月の城下は静けさを守るために車の一部規制によってあの美しい景観を守られている面がございます。本来、秋月は御承知のように戦国大名だった秋月氏、そして明治維新まで続いた黒田氏、約700年以上の歴史を持つ朝倉市の誇りとする城下町でもあります。

そこで、市長に伺いたいのは、ここに朝倉市の象徴として秋月城址の堀沿いにあったやぐら、あるいはまた塀などを復元をしたらいかがでしょうかということであります。

当時の正確な図面は、あるいは資料というのが残っていないということでもありますけれども、島原の乱の出陣図や今に残る図面というのを参考にすれば復元がある程度可能ではないかと思っております。そしてこれを復元すれば秋月らしい城下町に生まれ変わって観光客の

増大にも直結すると思われます。もちろんあの地区には中学校がありますが、お堀側の塀や門、そして隅やぐらなどを復元すれば、中学校との両立ができると思います。これらのことについて、市長は秋中の出身でもありますし、市長の観光政策についての考えをお伺いいたします。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 草場議員の質問にお答えする前にちょっと、先ほどの観光大使の件です。女優さんの件。5,000万円という数字が語られましたけれども、定かではないし、あくまでも予想の数字だろうと思いますので、こういうところでそういうのがひとり歩きすると非常に心配な面もございますので、でき得ればそこらあたりうまく調整していただきたいなと思います。

それと、秋月の城址を復元をしたらどうかという御提案でございますけれども、私はずっとあそこで中学3年間通いまして、その後も行っております。城址を復元、やぐらを復元、塀を復元することが果たして観光客がそのことだけでふえる要因になるのか。むしろ、じゃ秋月に住んでいる人たち、今住んでいる方の中でそういったやぐらだとかを知った人はもうまずゼロと、記憶にある人は、むしろ今の秋月の状況といいますか、雰囲気といいますか、それをむしろ愛して、好きで来られる方のほうがむしろ多いんじゃないか。あそこにとってつけたように今さら塀をつけて、果たしてそれが観光増の役目になるのかなというのは、私自身は非常に疑問に思っています。ですから、予算が幾らか、予算が非常にかかるということは別に置いて、むしろ今の秋月の雰囲気といいますか、たたずまいといいますか、秋月城址も含めた。それを大事にしていくということのほうが私としてはむしろ大事なことだろうというふうに考えます。

○議長（手嶋源五君） 16番草場重正議員。

○16番（草場重正君） やはり何らかの面影があったらいいのになあということを観光客の方々が言われます。と同時に、市民のシンボルとしてのものを設置して、品格ある城下町という、趣を備えるのではないかと考えております。

これは見解の相違でありましょうから、それはそれで今のままだいいんだ、いや、復元したほうがいいんだ。やはりそれは市民の判断に任せるとしても、やはり私としては復元をぜひ推進していただきたいという思いから、この復元について市長に政策として、推進したらどうかということを申し上げたわけであります。

今後、朝倉市が観光客、交流人口というのが増大することを心から願いまして、一般質問を終わります。

○議長（手嶋源五君） 16番草場重正議員の質問は終わりました。

午後1時まで休憩いたします。

午前11時43分休憩

---